

手仕事とか手料理とか。

手がついていると、

惹かれるのはなぜだろう。

その人だけの表現は、手から生まれる。
笠井先生はそう言います。

手でつくと、思いをギュッとこめられる。その人にしか表せないカタチや色彩、質感で描くことができる。それは決してコンピュータや機械では表せないから、人は「手」を感じるモノに惹きつけられるのだと思います。私のデザインの授業では、手の大切さ、面白さを伝えることを大切にしています。手を動かしながら考えると、自分でも驚くようなアイデアや表現が浮かんだりするんですね。以前、産学連携プロジェクト「誰もが使いたくなる駐輪場デザイン」というコンペにゼミで参加したときのこと。私たちはまず「自分たちが使いたい駐輪場」を文字で書き出し、それを形にするためラフスケッチでアイデアを練っていきました。欠点を見つけては描き直し、筋が通らないところはまた現場を見に行っては考え直し。その繰り返しでたどり着いたのが、狭い高架下でも使える「蜂の巣ユニット構造」のデザインです。斬新さが認められてアイデア賞を獲得できました。これも手を動かして考えることを貫いたおかげ。その面白さを学生達も実感してくれたようです。12月の授業は笠井則幸先生の「ヴィジュアルデザイン」からお送りしました。来月もお楽しみに。



ひとりを光らせる

和光大学

※現代人間学部 ※表現学部 ※経済経営学部